

広島市立大学附属図書館報

知 恵 の 樹

growing in OZUKA

特集＊冬におすすめの本

本格的な冬がやってきました。
寒くて外に出るのもおっくうな日は、
暖かいコタツに入って
読書などいかがですか。
きっと新しい世界との出会いが
あるはず…。



LOOK HERE!

開館時間の変更について

1月22日(木)から2月12日(木)までの間、開館時間を20時まで延長します。
また学年末及び春季休業期間中は17時までとなります。ご注意ください。
(詳しくは本誌4面か、ホームページの図書館カレンダーでご確認ください。)

学年末及び春季休業期間中の貸出期間について

学年末及び春季休業期間に伴い、2月10日(火)から図書の貸出期間が次のとおり
変わります。

区 分	特 別 貸 出 期 間	返 却 日
学生(1~3年生)	2月10日(火)~4月1日(水)	4月16日(木)
大学院生	2月10日(火)~3月16日(月)	4月16日(木)
卒業・修了予定者	通常どおり	

* 雑誌の貸出期間は通常どおりです。ご注意ください。

卒業・修了予定のみなさんへ

卒業・修了予定のみなさんの最終返却期限は、3月23日(月)卒業式の日です。
卒業式が始まる時間までに忘れずに返却してください。

大学院へ進学される場合も、借りている本は一旦返却していただくことになります。
引き続き借りたい場合は、図書を持参の上、カウンターへお申し出ください。

なお、自分の利用状況がわからない場合は、OPACの貸出予約状況照会画面で確認するか、
カウンター職員までお尋ねください。



特集 * 冬におすすめの本



“「冬」と言ったら・・・。”
 そんな連想ゲームのように考えた、
 寒い冬にぴったりの本を
 ご紹介します。



「冬」と言えば「雪」、 「雪」と言えば「冷たい」。 「冷たい」と言えば「氷」。
 「雪と氷の世界」、 「南極、北極」、 「オーロラ」・・・。

連想ゲームをしながら、雪と氷についてこんな本を集めてみました。雪の結晶の顕微鏡写真、
 オーロラの魅力を解説したものなど、意外といろいろありました。
 雪や氷について詳しくなると、雪をもっと楽しめるかも・・・？

『雪と氷の世界から』(岩波新書)

樋口敬二著, 岩波書店, 1985年【451.6ヒク 3F 新書】

『雪と氷のはなし』

木下誠一編著, 技報堂出版, 1988年【451.66キ 3F】

『新版 氷の科学』

前野紀一著, 北海道大学図書刊行会, 2004年【451.68マI 3F】

『スノーフレーク』

ケネス・リブレクト著, 山と溪谷社, 2006年【451.66リブ 3F】

『オーロラ：その謎と魅力』(岩波新書)

赤祖父俊一著, 岩波書店, 2002年【451.75アカ 3F 新書】

『こちら南極ただいまマイナス60度：越冬460日のホワイトメール』

中山由美著, 草思社, 2005年【297.9ナカ 2F】



寒い日はやっぱりお風呂。体の芯から温まりますよね。でも、湯舟にのんびりとつかる習慣は、日本ならではのようです。

日本人はなぜ風呂好き？、江戸時代の温泉って？、他の国のお風呂はどんなの？・・・などなど。他に、イギリスの暖房の歴史など、「温まる」本を読んでみませんか？

『入浴の解体新書：浮世風呂文化のストラクチャー』

松平誠著, 小学館, 1997年【383.6マツ 2F】

『江戸の温泉学』

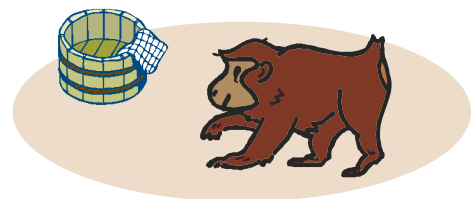
松田忠徳著, 新潮社, 2007年【383.6マツ 3F】

『風呂とエクスタシー：入浴の文化人類学』

吉田集而著, 平凡社, 1995年【383.6ヨシ 2F】

『暖房の文化史：火を手なずける知恵と工夫』

ローレンス・ライト著, 別宮貞徳 [ほか] 訳, 八坂書房, 2003年【383.9ライ 3F】



【 】の中は請求記号と配架場所です。

日本の年中行事といえば、まずお正月を思い浮かべる人も多いと思います。でも、その意味をご存知ですか？

幼い頃のお正月の遊び、おもちゃや凧の本を眺めたり、伝統行事としてのお正月のことやお正月の食を考えてみたり…。今年の冬は、お正月についての知識を増やしてみは？

『正月の来た道』

大林太良著, 小学館, 1992年【386才 2F】

『仏教行事歳時記 12月「除夜」』『仏教行事歳時記 1月「初詣」』

瀬戸内寂聴 [ほか] 監修, 第一法規出版, 1989年【186ト12, 1 3F】

『おもちゃ博物館 5 カルタ・トランプ = Playing cards 』

『おもちゃ博物館 6 双六・福笑い = Sugoroku & fukuwarai』

多田敏捷編, 京都書院, 1992年【759タ 5, 6 3F】

『凧：空の造形：凧の発生と歴史・日本の凧・制作の基本・創作凧・世界の凧』

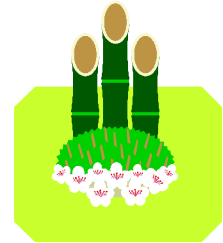
広井力著, 美術出版社, 1972年【759ヒロ 2・3F】

『次世代に伝えたい いまに生きる伝統料理』

山田チヨ [ほか] 編, 第一出版, 2007年【596.21ヤマ 3F】

『モチの文化誌：日本人のハレの食生活』(中公新書)

阪本寧男著, 中央公論社, 1989年【616サカ 3F新書】



ここに紹介する作品は比較的古いものが多く、旧仮名遣いのもので馴染みにくく、初めは抵抗があるかもしれませんが。それだけにスルメをかむ覚悟でかじってみるとじわじわと味が染み出してくるかも…。冬にまつわる文学作品を紹介します。

まず思いつくのが「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。…」。
でも、この先にどんな物語が展開されるのかご存知ですか？

『雪国』(岩波文庫)

川端康成作, 岩波書店, 2003年【913.6カ 3F文庫】

大晦日の夜、少女は売り物のマッチで凍えた手に暖をとる…『マッチ売りの少女』。
子どもの頃に親しんだおはなしを大人になった今、もう一度読んでみませんか。

『アンデルセン童話集 2』(岩波文庫)

大畑末吉訳, 岩波書店, 1984年【949.7アソ 2 3F文庫】

『9つの物語』

アンデルセン著, 山本史郎訳, 原書房, 1999年【949.73アソ 3F】



シェークスピア作の悲喜劇、『冬物語』。ストーリーは冬と関係ありませんが、タイトルから選びました。大正7年の坪内逍遙の訳より原書の方が読みやすいかもしれませんね。

『冬の夜ばなし』

シェークスピア[著], 坪内逍遙訳著, 名著普及会, 1989年【932シイ 12 2F】

『The winter's tale』

William Shakespeare, Methuen, 1982年【932SH 2F】

他に

『大つごもり』(樋口一葉)、『冬の日』(梶井基次郎)、『ドイツ炉辺ばなし集』(ヘーベル)などもお勧めです。

わたしの一冊

芸術学部 及川久男 教授

『造形思考 上・下』パウル・クレー[著] 新潮社 1973年

「私の二冊」が「私の一冊」

オイカワ・ヒサオの「私の一冊」は、パウル・クレーの「造形思考」である。

私ぐらいの年齢になると「私の一冊」が何冊もあり一冊に絞るのは、なかなか難しいのだが、35年近くも座右の書でありながら未だに読み込めていない一冊を紹介したい。

一冊といいながら上・下二冊組みなのだが、なぜこの二冊が「私の一冊」か、といえは、この本が私をデザイナーの道に進ませる動機となった本だからである。画家パウル・クレーがドイツバウハウス時代の論文や講義の草稿から造形やフォルムに対する思考方法についてまとめたもので、美についてデザインについて論理的に解析されており、デザインには哲学があると知ることになり、この本からデザインに、そしてバウハウスにのめり込んでいったのである。

この本に出会ったのは、高校3年のときだった。小学生の頃から自宅の前が円谷プロの円谷邸だったことや、東映、日活、円谷プロに近い環境で育った事もあり、映画作りをしたいと考え、映画専攻がある唯一の大学である日本大学芸術学部で学びたいと考え、毎日受験のためのデッサンに明け暮れていた。そんなある日、師の書棚にあるこの本が目にとまった、「造形思考 上・下」の2巻であった。

パウル・クレーの著作であるこの本は、美術家の本だということにアート紙600ページ以上もありながら、大半がスミ刷りの文字版で、カラー刷りが数ページというのも珍しかった。布張りハードカバーに箱入りで12000円という価格も含め、当時の私にとっては破格の本で、手に入るまでに、新宿の三省堂書店や、紀伊国屋書店に在ることを何度も確認しつつ、神田神保町の古書店を歩いて探し回る（現在のようにネットで探す事など出来ない時代である）が見つからず、やっとの思いでお金を貯めて三省堂書店で手に入れた。その時の情景は今でもはっきりと記憶している。この破格の本は私の書架で異彩を放ち続け、事あるごとにこの本を紐解くことになり、いつか私の座右の書となっていった。

この本は図書館3階にあります。ご利用ください。 < 請求記号 720.1クレ1・2 >

図書館カレンダー

1月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

開館日と開館時間のお知らせ

は休館日です。

通常開館期間
8：45～19：00

短縮開館期間(部分)
2月24日(火)～4月8日(水)
8：45～17：00

延長開館期間(部分)
1月22日(木)～2月12日(火)
8：45～20：00

3月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

4月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

編集後記

3階の書架を使いやすいように整えました。主に3類の社会科学、4類の自然科学、5類の技術の図書が移動しています。
「ここにあった本がない!」ということがあれば、OPACで調べるか、カウンター職員にお尋ねください。

2009年1月8日発行
 広島市立大学附属図書館
 広島市安佐南区大塚東3-4-1
 TEL : (082) 830-1508
 FAX : (082) 830-1659
 E-mail tosho@lib.hiroshima-cu.ac.jp
 http://www2.lib.hiroshima-cu.ac.jp